

次の文章を読んで、解答用紙の問に答えなさい。

先日、私は電車のなかで、若い女性が大学生風の若者に突然突き飛ばされて床にたたきつけられるというショッキングな「事件」を目撃しました。座席の端に座っていた若者のメール作業を、かたわらに後ろ向きで立っていた女性のかばんが邪魔をしたことが原因のようでした。床から起きあがった女性はものすごい表情で「犯人」をにらみつけていました。私がショックを受けたのは、その間二人の間に、ひとことの言葉も交わされなかったことです。若者が「ちよつとかばんが……」と一言声をかければ、「あら、ごめんなさい」ですむことです。また突然突き飛ばされた女性が、一言の抗議の言葉も発しないというのも、考えてみればきわめて不自然で異様なことです。私も含め見ていた周囲からも、若者をたしなめる言葉もなく一件落着というわけです。無意識のうちに関わり合いを避け「観客」に徹した私自身へのいらだちもあり、実に不愉快な「事件」でした。

人間は言葉により他とのコミュニケーションをはかり、社会生活を営んでいます。言葉により自分の考えを伝え、言葉により他を理解することを基本として社会が成り立っています。言葉による主張や説得を放棄することは、暴力につながります。「うるさい、黙れ」と言ってしまうえば、あとは暴力しかありません。その最大・最悪のケースが戦争だと言えるでしょう。

言葉は、思考の道具であり、言葉なしには、学問も文化も成り立ちません。日本の古代人は「言霊信仰」といって、言葉に霊魂れいこんが宿っていると考え、言葉を信仰の対象にしたということです。言葉の持つ大きな力をよく知っていたからでしょう。

最近、子どもや若者の言葉の力が落ちてきているのではないかという声をよく耳にします。子どもや若者がすぐに「キレ」たり「ムカツ」いたりするのも、このことと無関係ではないのかもしれませんが。人が生きていくうえでとても重要な言葉の力を、人はどのように獲得していくのでしょうか。基本的には、家族・地域の人たち・友達・年長者など周囲の人たちとのコミュニケーションのなかで言葉を身につけていきます。学校は意図的・計画的に言葉の力を伸ばすシステムとも言えます。

しかし、言葉を獲得するうえで最も効果的な方法は読書です。幼いとき何十回も同じ絵本を読んでもらったり、字が読めるようになるとワクワク、ドキドキしながら物語を楽しんだり、未知の世界にふれて感動したり……そういう本との出会いのなかで、人は知らず知らずのうちに言葉を身につけていきます。言葉が豊かになれば、思考が深まり、内面も豊かになります。

最近、核家族化や少子化が進み、また地域との関係がうすれていくなかで、コミュニケーションを通しての言葉の獲得が難しくなってきました。そういう意味で、読書の大切さがますます大きくなっていくといえます。また、世の中の世IT化が進めば進むほど、言葉の世界や読書の重要性が増すという主張も近年数多くなされています。

笠原 良郎 「読書するということ」(岩波ジュニア新書『ぼくたちの今』より)

(注) IT…information technology(情報技術)の略。コンピュータを用いて

情報を処理したり、他のコンピュータと通信したりする技術。